

まえがき

本報告書は、緑化生態研究室が平成20年度に行った調査・研究の概要ならびに、当研究室のスタッフが平成20年度に学会や雑誌などで発表した論文を収録したものです。

平成20年度に実施した調査・研究課題は、大きく以下の5テーマに分類されます。

- ① 地球温暖化対策に関する研究
- ② 環境影響評価の技術支援に関する研究
- ③ 外来生物等への的確な対応に関する研究
- ④ 景観の保全と再生に関する研究
- ⑤ 美しい街路景観の形成に関する研究

「① 地球温暖化対策に関する研究」では、都市緑化樹木のCO₂ストック変化量把握に関する研究、街路樹の植栽及び維持管理におけるCO₂排出量推計に関する調査を実施しました。

「② 環境影響評価の技術支援に関する研究」では、DNAを用いた生息地分断影響予測モデルに関する研究、動植物・生態系分野の環境保全措置と事後調査手法に関する調査を実施しました。

「③ 外来生物等への的確な対応に関する研究」では、地域生態系保全のための緑化技術の開発、道路緑地の設計手法に関する研究、特定外来生物の代替植生に関する調査等を実施しました。

「④ 景観の保全と再生に関する研究」では、隣接施設・街路等と連携した都市公園の整備・管理に関する研究、歴史的風致形成に資する建造物等の保全・活用方策に関する研究、河川総合開発事業における景観評価構造分析調査等を実施しました。

「⑤ 美しい街路景観の形成に関する研究」では、景観重要樹木の管理指針の策定に関する研究、樹木の根上対策に関する調査、台風による倒木被害対策に関する調査を実施しました。

道路、河川、公園・緑地等の社会資本の整備・管理に際して、自然と調和した良好な国土・都市環境の保全・再生・創出を図ることが、国土交通行政の重要な政策課題となっております。特に地球温暖化への対応や、生物多様性の確保は地球環境問題として、全世界が共通して取り組まなければならない課題であり、緑化生態研究室に対しても、これらの課題に適切に対応した技術開発や政策研究が強く求められているところであります。私たちは、研究成果に対する皆様からの評価やご意見を踏まえつつ、上に示したような研究を通して、より良い政策提言の発信に向けて努力していきたいと考えています。

末尾ながらこれまでの関係の皆様のご指導、ご協力に感謝するとともに、緑化生態研究室に対する変わらぬご支援をお願いする次第です。

平成22年1月

国土交通省国土技術政策総合研究所
環境研究部 緑化生態研究室長
松江 正彦